

杉先生のご逝去を悼む

七木田文彦・瀧澤 利行

平成十四年五月二十九日、本学会名誉会員であられた杉靖三郎先生がご逝去された。享年九十六歳の長逝であった。以下、先生の経歴と事績を記し、その業績の特徴を顧みることで追悼の意を表することとしたい(以下、故人を歴史的人物とし、敬称を省略する)

杉 靖三郎(すぎ やすさぶろう)

専門 運動生理学、ストレス学、電気生理学、健康学、医史学

一九〇六年(明治三十九)一月六日生(二〇〇二年(平成十四)五月二十九日逝去)

出生 大阪府堺市に渡辺元吉の三男として生まれる(本籍は鳥取県となっている)。

主な学歴 第二高等学校卒

一九二五年(大正十四)四月 東京帝国大学医学部入学

一九二九年(昭和四) 同卒

一九二九年四月 同副手

一九三二年(昭和七)九月 東京高等師範学校講師(一九四二年三月迄)

一九三四年(昭和九)四月 東京文理科大学講師

一九三四年(昭和九)五月 東京帝国大学大学院特選給費生

- 一九三九年(昭和十四) 四月 同満期退学
- 一九三九年(昭和十四) 十一月 東京帝国大学医学部助手(一九四一年二月迄)
- 一九四〇年(昭和十五) 七月十五日 医学博士(東京帝国大学)「筋負傷電ノ電源ノ座ニ関スル研究」
- 一九四一年(昭和十六) 八月 国民精神文化研究所員
- 一九四三年(昭和十八) 一月 教学錬成所錬成官
- 一九四三年(昭和十八) 中国へ出張
- 一九四五年(昭和二〇) 一月 国民精神文化研究所嘱託(同年十月迄)
- 一九四五年(昭和二〇) 七月 東京帝国大学医学部講師(専任、一九四七年七月迄)
- 一九四七年(昭和二十二) 三月 教職追放(一九五一年八月迄)
- 一九四七年(昭和二十二) 七月 日本医学雑誌社(現医学書院) 総編集長(一九五一年十月迄)
- 一九五二年(昭和二十七) 五月 東京教育大学特設教員養成部教授
- 一九五六年(昭和三十) 三月 東京教育大学体育学部教授
- 一九五六年(昭和三十) 九月 欧米出張(一九五七年二月迄)
- 一九六九年(昭和四十四) 三月 定年退職
- 一九六九年(昭和四十四) 四月 東京教育大学名誉教授
- 一九六九年(昭和四十四) 四月 専修大学教授(一九七六年三月迄)
- 免許 医師免許一九二九年(昭和四年)
- 受賞 「人間の科学双書第一巻 人間の生態」で毎日出版文化賞(昭和三十二年)、日本医師会最高優功賞(昭和三十七年)、
- 勲三等旭日中綬章(昭和五十一年)

昭和二十七年から日本医師会雑誌編集委員長

所属学会・団体 日本医師会、日本生理学会、日本医史学会、日本体育学会

趣味 旅行、絵画、音楽、古書蒐集

主な著書

『杉靖三郎著作選 一、養生訓と現代医学』『同 二、生命と科学』『同 三、科学する心』『同 四、日本科学の伝統』
 『同 五、和蘭医学事始』『科学と学道』『新説養生訓』『生理学』『現代生理学』『生理読本』『まちがいだらけの健康法』
 『四十からの健康』『ビジネスマンの健康』『現代の禅』『ストレス養生訓』『完全なる夫婦』『人間の生息』『健康の科学』
 『健康の総点検』『健康長寿の鍵』『生命・健康の本質』『現代っ子養生法』『夜明けの人杉田玄白』『病気をなおす知恵』
 『生活体』 訳書『現代社会とストレス』(H・セリエ) など

杉の経歴と事績は右のように多数であり、かつ多岐にわたっている。とくに比較的早期から医師の中では疾患の診断・治療よりも「健康」の重要性に着目し、その意義を大衆に対して啓発していった。この点の啓発的役割は石垣純二と双璧をなしたといえよう。医史学の事績としては、第一には貝原益軒『養生訓』を現代医学的観点から再評価したと、第二にハンズ・セリエのストレス学説を翻訳し、紹介したこと、第三に杉田玄白の『解体新書』に関する研究である。特に第二の点については、自身の生理学上の専攻とも重なり、「ストレス」を一般用語として広めた功績は大きい。杉は、東京帝国大学医学部教授で第一高等学校長、文部大臣を務めた橋田邦彦に師事したことから道元の思想に関して造詣が深かった。橋田門下は多かったが、橋田の思想を最も忠実に継承したのは杉だったといえよう。近年まで、大衆の啓発のための健康書や雑誌に執筆し、特に代替療法についても多くの論を著した。その経歴にみるように、戦後における医学ジャーナリズムの魁でもあった。なお兄に評論家・随筆家の渡辺紳一郎をもち、帝京大学教授の杉晴夫は子息である。